

平成31年度 学校自主研修事業(特色ある学校づくり) 実施報告

<p>研修先</p>	<p>・群馬県立太田フレックス高等学校(定時制〔3部制〕通信制普通学科) 群馬県太田市下田島町 TEL 0276(31)8047 ・埼玉県立戸田翔陽高等学校(定時制〔3部制〕総合学科) 埼玉県戸田市新曽 TEL 048(442)4963</p>
<p>研修日</p>	<p>・太田フレックス高等学校 11月12日(火) ・戸田翔陽高等学校 11月13日(水)</p>
<p>研修内容</p>	<p>〔太田フレックス高等学校〕 平成16年の創立以来一貫して学習不適應や不登校傾向を有する生徒の「学び直し」の場としての機能を有し、外国籍生徒が在籍生徒の約二割になろうとしている学校である。独自の学校設定科目や生徒のライフスタイルに合わせた指導・支援を工夫している。</p> <p>【具体的取組】</p> <p>・科目登録指導・授業内容等のマッチングについて 新年度には1週間の授業に対するトライアル期間を経て正式に受講する科目登録をするという形式をとっている。</p> <p>・新年度の学校生活等への適應支援と行事予定について 年度始めの1週間は、学校行事や年次活動、検診、担任との二者面談などを行い、授業はせず、新しい環境に慣れるよう指導・支援している。</p> <p>・多様な生徒に対応する学習支援について 上位層向けの個別指導として、リクルートのスタディサプリを導入している。また、学習が遅れがちな生徒には、県の事業を活用し、個別の学習指導を行っている。</p> <p>・習熟度別授業の様子・学校設定科目について 昼間定時制の国語総合・数学Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅰにおいて習熟度別の授業を展開して、学力差の大きい生徒に対応している。夜間定時制の学校設定科目として、「ことばと生活」、「みんなの数学」を開校して、学国籍の生徒対応や学び直しを行っている。</p> <p>〔戸田翔陽高等学校について〕 埼玉県の「共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業に係る高等学校拠点校」の指定を受け、専門家による巡回支援を活用している。ジグソー法を用いて「協調学習」を取り入れた授業改善に継続的に取り組んでいる。</p> <p>【具体的取組】</p> <p>・習熟度別授業の様子について 1年次は40人学級2名担任制であるが、学び直し授業として、国語総合・数学Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅰにおいて、2クラス3展開の少人数習熟度別授業を行い、定期考査ごとに授業クラスの再編を行っている。リクルートのスタディサプリを導入</p>

	<p>した学習室を設け,上位層の学習支援を行っている。</p> <p>・県の事業の導入・積極的活用について</p> <p>県の「学習サポーター制度」や「共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業」,「多文化共生推進事業」により,授業サポートや学習が遅れがちな生徒の対応,臨床心理士による年8～10回程度の特別支援教育巡回支援,中国籍生徒のきめ細かい支援を行っている。</p> <p>・特別支援教育の推進について</p> <p>近隣地域で増加する特別支援学校の児童生徒への対応を図るとともにインクルーシブ教育や高等学校における特別支援教育を推進するため,敷地内に県南部地域特別支援学校(仮称)を建設中である。令和3年度の開校に向け,地域や高校との連携・交流等についての業務を開設準備室が担っている。</p>
<p>学校づくりに 向けた具体の 取組案</p>	<p>【令和2年度からの取組】</p> <p>オンラインによる学習支援システムの導入について</p> <p>1 目的 学習意欲の高い生徒に対し,自学自習の機会・場所・機材を提供し,自己のペースで効果的に学習を進められるようにすること。この学習は,高等学校の学習を補うものとしてだけでなく,義務教育段階の学び直しの機会としても活用する。</p> <p>2 対象 本学習を希望する生徒(進路希望は問わない) 募集については年度初めに一括で行うが,年度途中からの参加も認める。保護者同意の上申し込みを行い,許可を得た生徒にのみ,機材の使用を認めるものとする。</p> <p>3 学習形態及び時間帯 【学習形態】学校のipadを使用した自学自習とする。 【学習場所】旧校舎3階「簿記室」を基本とする。それ以外の場所での学習を希望する際には,必ず事前に申し出て許可を受ける。 【学習時間】8:35～19:30とする。空き時間等を活用しても良いが,自己の授業やHR活動等に支障が出ないようにする。</p> <p>4 運営主体 希望生徒の募集・掌握,課題の印刷については年次ごととする。 学習内容の質疑については各教科が対応。</p> <p>5 利用できる学習支援システム 「Try it」と「classi(Benesseの運営する学習プログラム)」</p>
<p>成果</p>	<p>学習意欲の高い生徒に機材を使った自学自習の機会を提供することは,高い学習効果を生むことが期待でき,視察した高校の実践例を拝見し,本校での導入を決めたものである。ソフト面の使用料が大きなネックとなっていたが,無料アプリでも充実しているものもあり,生徒への負担を考え,令和2年度は上記の内容でスタートしたいと考える。</p>

